

(1) まちの中心部への移動は自家用車ですか、路線バス等ですか？

●暮らしの姿

- デマンド（予約）型乗合タクシーや路線バス、鉄道といった公共交通機関やタクシーなどの交通手段を目的地（近所・中心部など）に応じて、選択して利用しています。
- デマンド（予約）型乗合タクシーと基幹交通の役割を担う路線バスや鉄道との乗り継ぎにより、大規模商業施設や市役所・病院などへ出向いています。
- 高齢者や障がいのある人たちの利用ニーズに即した移動支援施策により、外出機会が確保されています。
- 自家用車と遜色のない外出手段の確保により自家用車台数が減少しています。
- 自動運転システムが普及し、道路上の通行車両による交通事故が激減しています。

●まちの姿

- 路線バスは、都市機能が集積されたエリア内を巡回する路線や地域から中心部を結ぶ路線が整備され、さらに市民の身近な交通機関として、日常生活に欠かせない移動手段として継続して運行がされています。
- デマンド（予約）型乗合タクシーは、利便性を高めながら運行が継続されており、地域内における市民の身近な交通手段として、また、地域外へ移動するための鉄道や路線バスへの乗継手段として利用が定着しています。
- 市の中心部や地域と中心部を結ぶ道路整備が進み、渋滞緩和や緊急車両の通行支障が解消され、安全で快適な道路環境が整備されています。



(3) 健康や医療、福祉は、どこで、どんなサービスを得ますか？

●暮らしの姿

- 住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される丹波市版地域包括ケアシステムにより、安心して住みなれた地域で自分らしい暮らしを生涯続けられる生活環境が整っています。
- 「いきいき百歳体操」や「口腔体操」が住民主体の通いの場として展開され、地域づくりにつながっています。
- 健康に不安を抱える高齢者においては、訪問看護や訪問診療、遠隔診療等によって健康管理を行っています。
- よろずおせっかい相談所が、地域住民の困りごとの相談窓口として活用されています。
- 市内の多くの若者が、生まれ育った地域の学校で看護を学ぶため入学しています。

●まちの姿

- 「基幹型地域包括支援センター」と「障がい者相談支援事業所」が、在宅医療・介護連携を強化し、効率的かつ効果的な取り組みが進められています。
- 兵庫県立丹波医療センター（仮称）と丹波市健康センターミルネ周辺一帯を、健康福祉ゾーンとして関連する産業・商業の集積がみられ、地域経済の活用化と雇用の創出の場となっています。
- かかりつけ医の一次医療を受け、県立丹波医療センター（仮称）においては、二次医療が受けられる体制が整っています。
- 若年層から健康意識を向上するための環境が整っています。



(2) 地域課題は、だれが対応していますか？

●暮らしの姿

- 市民と行政、市民活動団体等が協働し、地域課題や行政課題の解決が円滑に図られるようになっていきます。
- 自治協議会、自治会においては、見守り活動や買い物代行、配食サービスなど地域の課題に応じた様々な活動が展開されています。
- 地域団体の担い手不足が進んでいますが、自治協議会が活動を補完し、子どもから高齢者までこれまで同様に地域の活動に参加しています。
- 市民活動の浸透は、市民一人ひとりの愛着と誇りの育成につながり、積極的に地域活動へ参加や参画する意識の醸成が図られ、市民はそれぞれの役割を担い、様々な場面における活躍がみられます。



●まちの姿

- 住民自治組織である自治協議会の役割が明確になり、関連する市の支援制度の再整備により、各地区の特徴に応じた組織運営に伴い、多様な自治事業が展開されています。
- 行政と多様な団体が協働し、地域の様々な課題の解決が図られています。
- 市民プラザの整備によって、ボランティア団体やNPO団体への支援の充実が図られ、子育て支援や高齢者支援などの様々な分野で多様な地域づくり活動や市民活動が展開されています。
- 市民活動センターや男女共同参画センターの機能や取組みの充実とともに、市民プラザには新しい機能が順次集約されて活躍市民が増加し、個人や各種団体の地域づくり活動や市民活動が活発化しています。

(4) 子どもたちの教育環境は、どのようになりますか？

●暮らしの姿

- 住みなれた地域の中で、生き生きと活動する子どもたちの姿が見られます。
- 充実した教育環境の中で、子どもたちは、知力、実践力に加えて、同級生や上下級生の交流を通じて、コミュニケーション力を育てています。
- 統合した学校区では、新しい学校が地域活動の拠点となって、交流やコミュニティ活動が行われています。
- 廃校を活用している事業者と地域住民の想いがリンクして、地域の人々が集える場所として新たに活用されています。
- 地域住民は廃校に新たな付加価値を見出し、地域コミュニティの核として利活用を図っています。

●まちの姿

- 学校は市の中心部に集積することなく、地域の中で望ましい適正な学校配置が進んでいます。
- 統合された学校に通学する子どもたちの通学環境の安全性や快適性を確保するために、公共交通が充実しています。
- すべての小中学校に設置された学校運営協議会を中心に、家庭、地域、学校、それぞれの役割に応じた活動が活発に展開されています。
- 廃校施設の利活用方策についても議論が進められ、地域の理解が得られる中で、生涯学習施設や民間活用施設として、廃校後、速やかに利活用が図られています。



(5) 行政機能の効率化はどのように進めますか？

●暮らしの姿

- ・マイナンバーカードにより、各種証明の取得のほか、行政手続きの利便性が高まっています。
- ・公共施設が多機能化（集約化・複合化）により利便性が向上し、1箇所ですべてのサービスを提供を受けることができます。
- ・職員の適正規模を図りながら、簡素で効率的な組織、政策目標に的確に対応できる組織を構築し、高度化・多様化する市民ニーズに対して迅速かつ柔軟な対応ができており、市民の暮らしが向上しています。
- ・市民の活発な議論と合意形成のもと、必要最小限の行政機能は地域に残しつつ、統合庁舎が整備され、市民は複数の庁舎を巡ることなく用事を済ませることができ、便利になっています。

●まちの姿

- ・公共施設の統合・廃止・複合化等が計画的に進められています。
- ・行政機能の集積と業務の集約によって、住民の安全安心の確保及び生活上に密着するニーズに迅速に対応する行政機能が構築されています。
- ・地域においては、本庁との連携強化を図る中で、市民に身近な必要最低限の行政サービスが提供されています。
- ・行政機能の集約によって生じた、空き施設や空きスペースには、NPO団体や民間事業者による利活用、地域における利活用がなされ、新しい役割をもった機能・施設として有効活用がされています。



(7) 今よりもっと安全・安心なまちにするため、どうしますか？

●暮らしの姿

- ・災害時要援護者に対して、自主防災組織や福祉関係者などの様々な関係機関との連携強化により、避難支援体制の構築、福祉避難所の設置など支援体制の充実が身近な自治組織により図られています。
- ・有事の際に自主防災組織が有効に機能することにより、住民が応急的な救助活動や要援護者の避難誘導等がスムーズに行なえています。
- ・消防資機材が充実しており、消防団が迅速かつ的確に行動できる体制が築かれています。
- ・大雨時にも床上浸水する心配もなく、安全安心な暮らしが守られています。



●まちの姿

- ・非常備消防においては、団員数の減少により団の統廃合が行われる一方で、他団との連携強化などにより、これまでと同様の消防力の維持が図られています。
- ・市民の防火に対する意識の向上と市民による迅速・的確な応急手当と救急隊との連携により、多くの命が救われています。
- ・大雨による浸水対策として、河川改修等の治水対策や一時貯留施設の整備などの流域対策が計画的に推進されるなどの総合的な取組により、治水安全度が向上し床上浸水被害が発生することがなくなっています。
- ・消防本部では庁舎の更新を機会に署所の再配置を行い、市民が公平にサービスを受けられる消防体制になっています。

(6) 観光振興は、どこで、だれが担いますか？

●暮らしの姿

- ・恐竜化石、かたくりやもみじの名所、本州一低い中央分水界「水分れ」など、これまでからある貴重で豊富な観光資源にさらに磨きをかけることで観光客を魅了し、観光に携わる人々の笑顔とおもてなしの心が市内にあふれています。
- ・観光を生業とするNPO団体や事業者が増え、観光関連業で働く人が増えています。
- ・空き家や古民家を活用して、お店などを起業するU・Iターン者が増えています。
- ・6地域（生活圏域）の強みや売りどころ、誇るべき地域資源が焦点化され、地域住民あげてその存続と継承に取り組み、その活用を土台に地域活性化に真剣に取り組む市民が増えています。



●まちの姿

- ・観光関連施設が地域の都市機能の一つとなるよう整備が進み、観光産業が地域経済の発展と雇用の創出につながり、基幹産業の一つとして成長しています。
- ・新たに整備された観光施設と既存の観光施設のネットワーク化により周遊しやすい環境が整い、多くの観光客の訪問が地域経済の活性化につながっています。
- ・エリアマネジメントが展開され、空き家や古民家を活用した宿泊施設やレストラン、カフェなどができ、それらが連携することで地域の魅力が向上し、その魅力を求めて、観光客が増加しています。
- ・市内外から丹波市があこがれの地となり、「訪れたい」「交流したい」「買ってみたい」「住んでみたい」まちとして全国から注目されています。

(8) 週末や休日は、どこで、どのように楽しみますか？

●暮らしの姿

- ・週末や休日は、バスなど公共交通を利用して、市の中心部にあるおしゃれなレストランやカフェなどで楽しんでいます。
- ・市の中心部にある文化施設やスポーツ施設等でイベントやスポーツを楽しんでいます。
- ・地域には設備の整ったスポーツ施設等があり、本格的なスポーツを楽しむことができます。
- ・身近な地域には多目的広場等があり、日常的な運動やスポーツ、地域交流等の場として親しまれています。
- ・週末には、鉄道やバスなどの公共交通機関を利用して、帰省する人が増えています。

●まちの姿

- ・市の中心部には、週末や休日を楽しめる施設や機能が充実しています。
- ・スポーツ施設は規模の問題から地域に立地していますが、公共交通等によって市内各地からのアクセスが可能となっています。
- ・地域ごとに多目的広場等があり、地域管理のもと、地域の多様な交流や親睦等の場として機能しています。
- ・公園施設など週末に子どもたちの遊べる場所が充実しています。

